

〔巻頭言〕 『Informatics』 刊行、第8号を迎えて

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学情報基盤本部 公開日: 2012-09-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 川島, 高峰 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/13461

巻頭言

『Informatics』刊行、第8号を迎えて

情報基盤本部副本部長 川島 高峰

未曾有の大震災の中、『Informatics』第8号、巻頭言を書くこととなりました。2011年3月11日14時46分、三陸沖で発生したこの地震は東日本大地震、東北・関東大地震、東北地方太平洋沖地震とその名称さえ報道では未だ定まっていません。しかし、マグニチュード9.0と史上第4の規模の震災であること、戦後日本で最悪の災害となったことはまちがいありません。

被災された方、犠牲となられた方に、心よりお見舞いを申し上げます。

この震災に直面し、大学では帰宅困難者に対する施設の一時利用の提供を実施し、帰宅困難者に情報収集、安否確認のための情報施設とネットワーク利用の提供などを行いました。この体験をもとに、今後、震災等の緊急時において大学が社会に対して果たすべき役割とは何かを考えておくべきです。本学が社会に対して持つ信頼性、多くの公的助成を受けていることを考えれば、これは使命と言えましょう。

電力供給の制限から実施された計画停電は、これまで当然のこととされてきた常時接続サービスについて停電時の設備の対処、ユーザへの対応を考える契機となりました。原子力発電所の事故の状況からすると、2000年代に享受した電力供給量を期待することは当分の間できなくなるでしょう。計画停電の中・長期化が懸念される中で、改めて省電力化としてのグリーンITの再考が社会の中で議論されるに違いありません。また、原子力発電所の事故は、従来、外部サーバーの保管施設として最も安全とみなされてきた場所が、一転して、近づくことさえできない最も危険な所となってしまいました。社会の情報基盤が様々な観点で再考と新たな挑戦を試みる一年となるでしょう。

また、この一年間は情報メディアをめぐり新しい、そして大きな変化が起きた一年でもありました。スマートフォン、タブレットに代表されるように情報端末が多様化し、社会的には、必ずしもPCが情報端末の中心・先端であるとは言いきれない状況になってきました。情報端末の多様化は情報の導路の多様化・多元化でもあり、殊に動画情報の導路・端末が多様化したことは、「多メディア化」を決定的にしたと言えます。日本の若年世代で地上波テレビの視聴率が下がる一方で、ネット上の動画サイトの接触度が増大しました。Facebookがもたらしたジャスミン革命では、多くの画像・動画情報が携帯端末を介して世界に発信されました。もはや、新しいメディアは世界に変革をもたらす力を持っています。この他方、わが国では、これらの動向とほぼ同時進行で、地上波テレビのデジタル化が進みました。これは、従来、言葉の独り歩きの観があった「通信と放送の融合」を、具体的に、そして、決定的に加速していくことになるでしょう。テレビとパソコンの融合が進むわけです。

情報化がグローバルに進展する中で、知財をめぐる動向も複雑化しています。現在、情報産業では、知財の「適正管理」の名の下、個々の端末 - OS - アプリ - 利用者の所有・利用の関係を厳正に管理することで収益を維持しようとする傾向が強くなってきました。基盤本部ではソフトウェアの資産管理の推進に力を入れてきましたが、これは情報産業のこのような動向に対する防衛的、リスク回避的な対処であります。このようにソフトウェアの資産管理の厳密化が進む他方で、尖閣諸島問題をめぐる海上保安庁職員による動画流出、WikiLeaks の注目など、知財の公共性については考え方に劇的な変化が生じています。数々の公文書・私文書を不正に流出させた WikiLeaks は、ノルウェーの国会議員により 2011 年のノーベル平和賞候補に推薦されました。

システムとしていかに知財を厳密に管理してみても、情報と直接に関わる人が持つ「公共性」の価値観により、知財はいとも簡単に流出してしまうものであることを、数々の事件が示した一年間でもありました。これほどまでに高度に電子化されたはずの情報システムが、実は、極めて情緒的で、個人的な価値観により支えられてきたものであることを、改めてわたしたちは考えなければならないでしょう。むしろ、高度に電子情報化をすればするほど、諸個人の価値観の集積がシステムを形成していることを明確にしていくのではないのでしょうか。システム・エラーとヒューマン・エラーの相乗をこの一年に見た気がいたします。

大学組織にとっての電子システムとしての情報基盤、これが情報基盤本部の主たる所轄ではありますが、学術機関として、社会にとっての情報基盤とは何か、世界の中で情報基盤とは何かを見据える一年としたいです。